

地域国際化ステップアップ・ワークショップ（北海道）

～地域活性化に国際協力・多文化共生を～

多文化共生課

10月21日（金）、札幌市の北海道立道民活動センターで、「地域国際化ステップアップ・ワークショップ」を開催しました。当イベントは、自治体、国際交流協会、教育機関、NGO・NPO など様々な団体の関係者を対象に、基調講演、事例発表、グループワークを通して、地域の国際化やそれに向けた各団体の役割、連携のあり方について理解を深め、地域の活性化につなげる機会とするものです。自治体とNGOの連携を推し進める市民国際プラザの一事業として平成18年度から実施し、昨年度から各地域に出向き開催しています。

今回は、札幌市で開催ということで、北海道における地域の活性化をテーマとしました。参加者数は35名で、道内の自治体、国際交流協会、NGO・NPO、大学関係者など幅広い業種、年齢の方々にご参加いただき、様々な業種でこのテーマへの関心の高さを感じました。



会場の様子

○ 基調講演 地域活性化のカギは多文化共生～ 多文化共生マネージャー 田村 太郎 氏から ～

始めの基調講演では、当協会を始め様々な団体から引っ張りだこの（特活）多文化共生センター大阪代表理事の田村太郎氏に、地域活性化における多文化共生の重要性についてお話をいただきました。



講演を行う田村氏

人口減少、高齢化社会など様々な問題を抱える地域社会が「持続可能な社会」の形成をするためには、多文化共生施策を推進し、外国からの観光客や定住者を増やしていく必要があり、今のうちから対応をしない自治体は「確実につぶれますよ！」という言葉が印象的で、自治体職員としてはいい意味で考えさせられるものでした。わかりやすくユーモアにあふれ、聴く人の関心を引く田村氏のお話はとても勉強になりました。

○ 事例発表① 滝川市の国際観光にける意気込み～ 滝川市長 前田 康吉 氏から ～

滝川市は、北海道の中でも特に国際交流・国際協力を力を入れてきた自治体で、1993年から続くアメリカのマサチューセッツ州スプリングフィールド市との姉妹都市交流や、2000年から JICA の「草の根技術協力事業」を活用し、マラウイ、ブータン、エチオピアなどから農業技術研修員、水道技術研修員、教員など、これまで400名を超える研修員を受け入れてきました。

前田市長は、これらの実績はまさしく滝川市の豊かな自然環境や全国トップクラスの農業関連施設などの地域資源を存分に生かしてきた結果であり、また多くの交流を通じて滝川市民の外国人に対する意識が変わり、おもてなしの心が育ったと語りました。今後は、豊かな地域資源と培ったおもてなしの心を生かし、周辺自治体と連携しながら、国際観光促進事業を推進し地域の活性化を図っていききたい、と力強くおっしゃっていました。



事例発表を行う前田市長

○ 事例発表② 「ニセコブーム」の火付け役～ ロス・フィンドレー 氏から～

虻田郡倶知安町でアウトドアスポーツ体験事業等を展開する(株)ニセコアドベンチャーセンター(NAC)代表取締役のロス・フィンドレー氏にご登壇いただきました。

ロス氏はオーストラリア出身で、1990年に来日し、札幌でスキーインストラクターを経験した後、ニセコ地域の自然に惹かれ1992年に倶知安町に移住しました。ロス氏はそこで「夏のレジャーを創出したい」との思いから、1995年に同社を立ち上げました。ラフティングなど夏にできる体験観光を成功させ、ニセコ地域を冬だけではなく通年観光の地に変貌させました。

ロス氏は、これまでのご自身の経験から、外国から来た自分がどのようなライフスタイルを送りたいかを考え、実践していくことが国際観光の促進につながると語りました。今後は、夏の観光としてアウトドアスポーツを体験するだけでなく、ニセコの豊かな自然を楽しみながら気軽に一定期間滞在できるコンドミニウムのようなサービスの提供や、地元のレストラン、マーケット等と連携し、気軽に街を歩き地域の人々とコミュニケーションを楽しめる環境を整備したいとおっしゃいました。

○ 事例発表③ 東日本大震災を支援して～ 小泉 雅弘 氏から ～

札幌市で活動する(特活)さっぽろ自由学校「遊」理事の小泉 雅弘氏は、同団体が震災時に行った外国人支援ボランティア活動を通して、災害時の外国人支援においては、多文化共生社会が欠かせないと語り、多文化共生社会の形成のためには、単一民族である日本

人が多様性を認識すること、価値観の違いを表明できるコミュニティを作ることが必要と主張されていました。

○ おわりに

最後のグループワークでは、自治体、NGO、学生、一般の方など様々な立場から意見を出され、活発な議論が行われました。普段なかなか出会うことのない方々が自由に議論する姿は、そこで新しい何かが生み出されているような気がして、これからも全国各地で継続すべきイベントであると感じました。



グループワークの風景

(細越主事 宮城県派遣)

